

市ヶ谷
図書館
だより

<https://www.hosei.ac.jp/library/>
特別増刊号

Edited by ICHIGAYA
LIBRARY
SUPPORTERS VOL. 1
2020.4

企画 文豪史跡巡り

夏目漱石の足跡を辿る巡礼記！

企画 三題噺

キーワードで物語を紡げ

連載 書評

オススメの本をサポーターが紹介

PR 山の手コンソ

他大学の図書館が使える制度、知ってますか？

編集後記

編集長から

私たちが
編集しました！



特集

ライサポって…何？

ライブラリーサポーターの活動に迫る！！



法政大学市ヶ谷図書館ライブラリーサポーター

<https://www.hosei.ac.jp/library/>



For our Library

Library Supporters are student volunteers.

We help to make the library more attractive from the students' point of view

私たちライブラリーサポーター(以下ライサポ)は
ピアネットに所属している図書館の学生ボランティアです。

より魅力的な図書館を作るために活動しています。



法政大学市ヶ谷図書館

ライブラリーサポーター

HOSEI UNIV. ICHIGAYA LIBRARY SUPPORTERS

www.hosei.ac.jp/library/shokai/gaiyo/library_supporter.html

ライサポは現在スタッフ募集中！
少しでも活動に興味を持った方はぜひ応募してください！待っています！

募集対象：市ヶ谷キャンパスの学部生、院生、通信教育学部生

お問い合わせ：libi@hosei.ac.jp

募集締切：2020.6.24（水）15:00





6月：顔合わせミーティング

年度最初のミーティングです。お菓子を食べながら和やかに行いました。



8月：ライサポ朗読会

ライサポ内で、自分が好きな小説を1ページ朗読しました。ライサポ内には声優のスクールに通うメンバーが！発音の基礎の基礎から教えてもらいました！



10月：図書館業務体験

毎年行う恒例行事です！カウンター業務や本の修理など…普段はできない経験がたくさんできます。



11月：図書館総合展

国内の図書館関係者がパシフィコ横浜に大集合！他大学や企業などの取組から、色んな刺激を受けました！



6月：選書ツアーin紀伊国屋

新宿紀伊国屋書店にて図書館で購入する本を選びます！毎年恒例のイベントです。

8月：ピアネット合同研修会

ピアネットに所属している他の団体と交流する機会です。意見交換しながら時には新しいイベントや企画が生まれることも…！



8月：POP作成会

本を紹介するPOPの作成会。職員さんが丁寧に教えてくれるので、初心者でも安心です！



11月：学祭ビブリオバトル

2019年度初めて行った企画です。ビブリオバトルとは本の紹介バトルです。本番に向けて週に一回ミーティングを行いました。当日は老若男女問わず多くのお客様に楽しんでもらえました！



～文豪ゆかりの地を巡る～ 漱石と神楽坂



キャンパス周辺のNo.1お洒落スポット、神楽坂。素敵なお店が軒を連ね、ぶらぶら散歩するのも楽しい。空きコマの時間潰しなど、法大生にとって身近な場所だ。

およそ100年前にも神楽坂で散歩を楽しんだ男がいた。男の名は夏目漱石。明治を代表する文豪である。一人で、またときには弟子達と共に散歩をして買い物や食事を楽しんだという。神楽坂は、漱石の多くの作品に登場し、お見合いした鏡子(漱石の夫人)とすれ違ったのもここだった。

今回は漱石ゆかりの神楽坂周辺スポットを紹介する。(宮島昌英)



・善国寺(毘沙門天)
「坊ちゃん」にも登場。
縁日の賑わいが描かれている。



・相馬屋
江戸時代から続く老舗の文具店。
漱石も相馬屋の原稿用紙を使用した。



・漱石生誕の地
生誕百年を記念した記念碑が建立されている。この地での幼少期のことは、漱石が大正4年に書いた随筆『硝子戸の中』に詳しく記されている。



・漱石終焉の地(漱石山房)

漱石が明治40年(1907)から大正5年(1916)まで暮らした地。ここで『三四郎』『それから』『門』『こころ』『道草』などの代表作を発表した。跡地には、2017年に完成した全国初の本格的な漱石の記念館である、漱石山房記念館が建つ。『吾輩は猫である』のモデルとなった「福猫」の13回忌にあたる、大正9年(1920)に建てられた猫の墓が残っている。こちらは現存する漱石山房唯一の遺構。



・夏目坂
『硝子戸の中』によると、このあたりの地主であった漱石の父、直克が命名したという。

三題噺「春拾い」



三題噺とは、 元来落語の大喜利の一種で適当に言葉（題目）を出させ、その題目3つを織り込んだストーリーを紡ぎ出す即興芸です。そこでライサポのメンバーに3つのワードを提示し、短編小説の執筆に挑戦して頂きました。

今回は「胡散臭い」「香る」「流星群」の3つのワードがお題です。

薄いインスタントコーヒーは麦茶の味がする。マコトはようやく冴えてきた頭でそんなことを考えた。半分寝ながらインスタントコーヒーの顆粒をコップに入れたせいで、その量の少なさに気付かずお湯を注いでしまったのだった。

マコトは朝食の時には必ずコーヒーを飲む。それは寝起きの悪い自分の頭を叩き起こすための手段であり、平日はコップの底がコーヒーの顆粒で完全に見えなくなるまで顆粒を入れて、ガツンとくる苦みで目を覚ましていた。健康に良いか悪いかはさておいて、今日は日曜日だったので適当にコーヒーを注いだ結果、想像より薄いものができあがったのである。休肝日みたいなものだった。

香りも味も薄いコーヒーを飲みながら、マコトは昨日の夜にポストから取り出して、机の上に放ったままにしていた手紙に目を通す。何枚か入っていたその手紙は、空き物件の宣伝だったり、不用品買い取り業者からの広告がほとんどだった。赤いゴシック体に白で縁取りされた「不用品買取ります」の文字が、ごちゃごちゃした文字列の中で目立っている。

マコトは最近、それと全く同じセリフを電話の受話器の向こう側からも聞いた。本当にそういうものを買取る業者なのか、はたまた個人情報を引き抜こうとする悪徳業者なのか。電話口の妙に愛想のいい声音は胡散臭く、変に勘繰ってしまった。

そんな胡散臭さを漂わせたチラシだが、マコトはこれが存外嫌いではなかった。百年経てば、いつか博物館に展示されてもおかしくない。マコトはものを見る時、そんなことを考える。人間は百年生きられても、百年分の記憶は持たない。二本足で歩けなかった頃の記憶は大抵忘れてしまう。だから百年という時間には価値があるのだ。

こんな風にマコトが日常的に見て、捨てることに何の感慨も抱かないものだって、百年後にはどんな価値を得ているのか分からないのだ。面白いな、と単純にマコトは思う。日常の中からこういう、ちょっとした面白い素敵なものを見つけ出すのが、マコトの数少ない趣味でもあった。

チラシをまた机の上において、マコトは部屋の中の空気を入れ替えるために窓を開けた。朝日が差し込むよう、部屋の東側に取り付けられた窓から、ゆったりとした風が流れ込んでくる。花の香りとともに部屋に迷い込んできた白いものを見つけて、マコトはふと、空を見上げた。桜の花びらだった。マコトの住む安アパートの脇にある桜が、枝葉を伸ばして空を覆っていたのだ。はらはら落ちてくる桜の花びらは、まるで青空を渡る小さな流星群であった。春だ、とマコトは思わず緩めた口元で思った。

書評

BOOK REVIEW

byライサポ

市ヶ谷ライサポがこの春おすすめの本を紹介します。

『Presents』

小説：角田 光代 絵：松尾 たいこ

「女性が一生のうちにもらう贈りもの」をテーマとした短編集。ランドセルや鍋セットなどの形のあるものから、名前や記憶などの形のないものまで様々な贈りものについて描いた短編小説が鮮やかなイラストとともに12作品収録されています。1つ1つのお話が短く読みやすいため、この春から読書の習慣をつけたいと考えている方や普段忙しくてなかなか本を読む時間が取れないという方にもおすすめの1冊です。

『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』

新井紀子・著 東洋経済新報社・出版

春という季節は、新しいことを始めることと共に語られることが多い。今回は、新しい視点、新しい感じかたを提供してくれる本を取り上げる。

選んだのは、『AI vs. 教科書が読めない子どもたち(新井紀子/東洋経済新報社)』だ。現代では、今ある職業がAIに奪われる、AIが人間に反抗するなど、SFで描かれるような世界が未来として語られている。

この本は、「ロボットは東大に入れるか」というプロジェクトで開発された人工知能「東ロボくん」の挑戦を導入に置いている。一見するとAIが人間に勝つことを目的に活動する話にも思える。しかし後半で書かれるのは、AIができないこと一すなわち「文章の読解」について人間が抱えている問題である。

著者の新井紀子は、東ロボくんの開発に携わるなかで、AIにはない人間の読解力に目を向けた。AIには、文脈を読み取るということができない。これは、読解に関して人間の方がより優れた力を持っているということになる。

著者は、人の読解力を測るため、教科書の中にある文章を正確に読み取れるかのテスト「リーディングスキルテスト(RST)」を作成する。そこで発覚したのは、教科書にある文章すら正確に読み取れない人間が一定数いるという事実だった。

AIより本当に強い人材とはどういうものか、どのようにAIを攻略していくのか、著者の研究結果と挑戦が見える一冊だ。AIは国語が苦手だということから、人間の読解力に話が繋がる過程は、今まで語られなかった現状に踏み込んでいく。未来に何を描きたいか、考えさせられる一冊だろう。

この本の出版は2018年だが、昨年『AIに負けない子どもを育てる』という本が新たに出版された。先ほど述べたRSTを様々なところで実施し、得られた結果からわかることが述べられている。RSTや人間の読解力に興味をもったらこの本にも手を伸ばしてほしい。

今回は、新しい視点を得られる本を取り上げた。春、新しい季節が巡ってくる。ぜひ、新たな視点を手に入れてほしい。





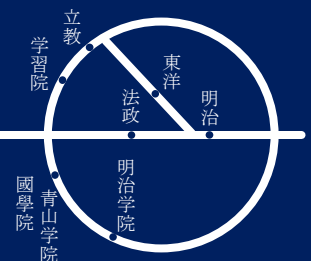
使えます

他大の図書館

「借りたい本がない！」そんなときにオススメなのが「山の手コンソ」です。
「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」は山手線沿線の大学（青山学院・学習院・
國學院・東洋・明治・明治学院・法政・立教）が協定を結び、相互の連携を深める
コンソーシアムです。これにより、本学の学生は7大学の図書館の利用と本の貸出が可能
になっています！7大学にどんな本があるかは本学図書館OPACから検索可能。資料が
見つからない際はぜひご活用ください。

△利用するにあたって△

- ・訪問の際は、必ず身分証（＝学生証）を持参してください。
- ・資料貸出にはカード発行の手続きが必要です。原則即日・無料で発行します。
- ・発行に必要な書類は、下記のURLから確認してください。
- ・貸出・返却は、各大学図書館で直接行ってください。
- ・貸出期限は2週間です。期限を過ぎた場合各館の罰則がそれぞれ適用されます。



市ヶ谷図書館だより増刊
ライブラリーサポーター編集号

<https://www.hosei.ac.jp/library/>



編集後記

最後までお読みいただきありがとうございます。

本号は学生が発行する最初の市ヶ谷図書館だよりとなります。コロナウィルスの影響で集まって作業が出来ないなどの困難もありましたが、どうにか発行までこぎ着けることが出来ました。

引き続き発行していく予定ですので、また次号を楽しみにお待ちください。本誌が図書館や本に、さらに親しみを持っていただけるきっかけとなれば幸いです。

法政大学市ヶ谷図書館ライブラリーサポーター

www.hosei.ac.jp/library/shokai/gaiyo/library_supporter.html